



伊豆の国市立葦山中学校 学校だより

学校教育目標

「明日に希望を持ち今日を頑張る生徒」

重点目標

「かしこく考え やさしく押し たくましく生活する」

葦中だより

住所:伊豆の国市葦山葦山393

電話番号: 055-949-1061

令和元年7月3日発行

第17号

中学生は自分のペースで頑張ってます！ 伊豆の国市立葦山中学校長 手島雅恵

私は保護者に対して「中学校3年間というのはすべての親にとって試練の時です」という話をよくします。「ああ言えばこう言う」「捨て台詞を吐く」「終いには何も話さず黙る」「そっぽを向いて無視して行ってしまう」など、子供が親の思い通りにならなくて、もどかしくもあり腹立たしくもありという状況が、思春期の中学生を抱えているとこの家庭にも、大なり小なり出てきます。実はそうしたことは当然のことです。しっかり自立していくための表れなのです。

思春期に子どもたちは数多くの経験を積んでいきます。その中で様々な人との関わりを持つこととなります。そして、いろいろなことに挑戦していくたびにへこたれたり、他人と自分を比較して落ち込んだり、自分の弱さに物事を投げ出したくなったりと、じたばたし通します。ペースは一人一人異なりますし、表れ方も違ってきます。でも、葦中生はみんな頑張っています。親の知らないところでたくさんのお気遣いをしています。いじらしいほどに耐えていることもたくさんあるように思います。

私たち大人は、親はそんな子供たちに対してどう関わればいいのか。

ある雑誌にこんな文章が掲載されていました。

親ならば子供が困ったときにすぐに助けたいと思うでしょう。しかし、子供への手助けは子供の持つ潜在的な力を伸ばすことを意識して行わないと、かえって子供の成長を阻害することにもなります。逆に大人が手を貸さないといけないことを見過ごし手助けをしないことも子供の成長を阻害することにつながります。

思春期は人生の中の「疾風怒濤」の時期であると言われますが、親は子供の不安定さに振り回されることなく、自分の子供の専門家として子供の将来を見据えた関わりをしたいです。

なかなか難しい点もありますが、子供の心に寄り添い、精一杯頑張っている親の姿、惜しみなく支援していく姿勢を示すことが大切だと思います。だから、私は保護者をお願いしたいです。

「心配しなくていい。どんな状況になっても、どんな選択になっても高校進学等のための費用はバックアップするよ。だから、自分なりのペースをつくってやっていけばいいからね。焦る必要はないよ」という声をかけてやってください。親の背中を子供はきちんと見ています。



上は1年家庭科授業での「キュウリの輪切り」の実技場面です。下は3年生の授業風景ですが「手の上げ方よし、じっくり考えるよし」です。



下は2年英語科授業、班でかかわり合いの場面です。



いよいよ中体連夏季大会が今週末から始まります。葦中は先週末に3年生激励会を行いました。1、2年生は3年生の闘志をより奮い立たせるために、3年生は勝負の場に立つ強い意志と仲間と共に全力で頑張り抜く熱い気持ちを自分自身で確認するとともに、それらを後輩に示すために、それぞれの立場で精一杯のパフォーマンスを見せていました。

体育館に響き渡る声、声、声、そして必死の形相の声援に胸が熱くなりました。全校生徒の思いが一つになる時、そのエネルギーは計り知れない↓

1、2年生の激励会練習の一場面です。



いよいよ勝負の時が来た！頑張れ葦中生！



↓ものになります。中学生だからこそその底力を感じることができました。この激励会を迎えるまでに、教室では何度も何度もエールや応援歌練習が繰り返されてきました。そこにはいつも応援団員の指示の声がありました。「生徒による生徒のための激励会」が買かれていました。3年生のために、後輩のために自分たちに何ができるのかと、問いかけながら取り組み続けたからこそ、最後に思いは伝わるのですね。

勝負どころ、「絶対に最後まで粘る、諦めない」気持ちで勝敗を左右します。心を一つに頑張れ！葦中生！

保護者の方からのご意見・感想
()年()組 ()生徒名

※体調やいじめ等教育活動の中で気になる点や心配な点などについても遠慮なくお知らせください。



伊豆の国市社会福祉大会で発表

六月二十九日(土)、伊豆の国市社会福祉大会に葦中を代表して2年勝又優柚乃さんが主張発表を行いました。自分の病気のこと、1年の時の福祉体験のことをふまえて、命の大切さを語っていました。世の中には救える命があります。そのことを改めて感じさせてもらいました。素晴らしいです。